

## 2013年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体)

## 最終報告書



記 入 日

2013年11月22日

<b>実践団体名</b>		埼玉県立日高特別支援学校	
<b>連絡先</b>		代表：宮 敦子 042-985-4391	
<b>プランタイトル</b>		日高特支 防災意識向上計画 はじめのいっぽ	
	<b>番号</b> <sup>※</sup>	<b>詳細</b>	
<b>1 プランの対象者</b>	8.9.14	本校児童生徒および教職員、保護者、学区内の役所等	
<b>2 対象災害種別</b>	1	埼玉県想定「立川断層帯地震」「東京湾北部地震」への対応等	
<b>3 プランの目的</b>	2.4.6.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校防災マニュアルの充実</li> <li>・児童生徒及び教職員、保護者等の防災意識の向上</li> <li>・肢体不自由児特有の問題を明らかにし、その解決策を探る</li> </ul>	
<b>4 協力・連携先</b>	1.3.5	本校教職員およびPTA、学区内の防災関係部署、消防署、熊谷地方気象台など	
<b>5 プログラムの種類</b>	2.16	保護者・教職員への防災研修会、ショート訓練等	
<b>参考先進事例</b>	<b>活動年度</b>	2010年	<b>団体名</b> 高津養護学校 たかつ地域ネットワーク推進会議
	<b>参考内容</b>	障害のある方の保護者や支援者向け防災学習会開催 保護者・支援者のための「地域防災ガイドブック」発行	

※ 赤枠は別紙「記入上の留意点」の各項目から選択し、記入してください。

<b>地域特性に応じたアレンジ・工夫点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂食障害に配慮し非常食を食べやすく工夫した試食会の開催</li> <li>・家庭用ガイドブック作成 ・テーマを決めたショート訓練</li> </ul>
<b>実施スケジュール内容・成果</b> <sup>※</sup>	<p>4月 学校防災マニュアル読み合わせ（教職員）</p> <p>5月 全校集会、小学部1年生朝の会にて緊急地震速報についての指導</p> <p>6月 総合防災訓練 水消火器体験 PTA防災学習会 アンケート実施</p> <p>7月 ひだか防災部便り発行 伝言ダイヤル体験</p> <p>8月 熊谷地方気象台永田氏から助言 防災研修会(国崎信江氏)開催</p> <p>9月 緊急時対応研修 引き渡し方法の確認と災害時各班話し合い 緊急校内一斉安全点検 テーマを決めたショート訓練（プール想定）</p> <p>10月 ひだか祭にて本校の防災対策のまとめ、防災用品展示</p> <p>11月 避難訓練および引き渡し訓練 地震発生時の身の守り方の指導 ショート訓練（給食指導中想定） 家庭版ガイドブック発行</p>
<b>全体の反省・感想・課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修を通じて防災への意識が向上した。防災部だけではなく、PTAや給食部、保健部、自立活動部と連携し、取り組むことができた。</li> <li>・本校ならではの防災教育を作り上げていく必要性を感じている。</li> <li>・避難所を想定し、地元の市と地域と一緒に取り組める活動を検討している。</li> </ul>
<b>今後の継続予定</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA、近隣市町、施設と連携した防災研修</li> <li>・研修を通じ教職員への共通理解、および災害時の動きを確認、課題の検討</li> <li>・避難訓練等で肢体不自由児校ならではの課題を明らかにし、検討する。</li> </ul>

# 2013 年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体) 最終報告書



**自由記述欄** (必要に応じ、具体的な活動記録を自由様式で補足添付することが可能です。頁数自由)

(マニュアル読み合わせ)

昨年度改訂された学校防災マニュアルに、レスパイトや保護者が迎えに来た時の対応、校外学習時の災害対応について等の、新たに加えた項目や、在校時の災害対応についてA3にまとめた教室掲示用フローチャート等を今年度始めの緊急時対応研修で全職員と確認した。

(全校集会)

今年度初の全校集会において、緊急地震速報の音とともにその時にどのような対応をとるべきかについて指導した。小学部1年生については初めての試みになるので、より具体的に指導するため教室での朝の会を利用して再度実施した。その成果もあり、避難訓練当日もパニックにならずにいられた。一方で他の学年では訓練当日にパニックになった児童がいたことから、今後は教室ごとの具体的な指導方法を考える必要があると思われる。

(総合防災訓練)

本校と連携している高萩消防署の指導を受けながら実施した。シークレット訓練が基本だが、年度当初なので1週間の枠の中で実施した。

以前から消防署のアドバイスで避難経路上に障害物を敢えて設定し、その対応をみんなで考えてもらおうと計画していた。ところが訓練であることを知らなかった教員が、これは危ないと片づけてくれたため、実際の訓練では確認することができなかった。普段からの危険回避についての心がけのよさが分かる結果となった。

また、水消火器の使い方について体験した。ほぼ全員が体験できた。

(PTA合同学習会)

事前アンケートを行い、家庭での防災意識を確認する機会もとることができた。各家庭での防災意識の違いが明白になった。家庭向けの話をあんどうりす氏に依頼。わかりやすく具体的な内容だったため、参加者からはとてもためになったと好評だった。もっとみんなに聞いてほしい、PTAでの地区会でも話し合いたい、などの感想が多くあがった。反省点として学習会の報告を家庭用ガイドブック発行まで待たずにすぐに行った方がよかったのではないかと。人はすぐに忘れてしまうので、今後は覚えていこうと行う。

(ひだか防災部便り)

これまでの取り組みについてもっとみんなに知らせるべき、との校長からの指導により発行。今年度より始まったイオン黄色いレシートキャンペーン(売り上げの1%を寄贈してもらう。本校の防災対策について広報し、そのお金で防災用品を購入予定)の取り組みや、研修で行ったそなエリア、防災学習センターの紹介等を行った。他にも季節に応じて台風や竜巻の対策、非常食についての取り組みを知らせている。毎月1回以上、6号まで発行している。

(防災研修会)

チャレンジプランの実行委員でもある国崎信江氏に依頼。車いすの児童生徒のいる学校での防災対策について講演してもらった。PTAや近隣の防災に関心のある方にもお知らせを送り、公開講座とした。学区内の重度心身障害者施設の職員と近隣の特別支援学校の防災担当者が参加した。保護者からはベストの用意やヘルメットの必要性を実感した、と感想があがった。教職員からは校内の安全確認とこれまでの想定の甘さへの反省が上がった。この後職員の防災

## 2013年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体) 最終報告書



への意識関心が一気に向上していったことを感じた大変実りある研修になった。

(緊急安全点検)

本校は夏季休業中に校内改修工事を実施した。工事終了後、ロッカー等の備品を元に戻した際に、防災研修を受けたことにより緊急一斉安全点検を行った。棚の固定にはどのようなものが適しているか、など具体的な対応と各火元責任者と教科担当者と共に複数の目で行っている。

また、自立活動室は自立活動部の協力により、パーテーションを外して、棚もなくし、安全性の高い広いオープンスペースに配置を変えることができた。現在、校舎内の避難場所の候補にもなっている。

(緊急時対応研修)

研修直後ということもあり、昨年度とは違い、職員の取り組む意識も意欲的でより具体的な意見が多く出された。これまでの防災備品への不足を指摘し、自分たちの動きを想定し、どこに何があって、誰がどう動くか、への提案が多く出された。防災対策委員会でフィードバックし、全校で確認している。

(ショート訓練)

熊谷地方気象台の永田氏に本校の防災対策についてのアドバイスを頂いた。これまでのようにただシークレットで行って対応を考えるのではなく、事前学習→当日→事後学習と系統的な(場所や時間の設定を毎回変えて)取り組みを考え、全職員に考えてもらい、という流れに変えることになった。事前に設定を伝え、それぞれに考えてもらい紙に記入する。想定してからの実施でどのような課題があったかを含め、事後に検証し、アンケート形式で回答してもらった。

今回初めてのプール指導中のショート訓練を計画した。実施団体は医療的ケアの多い小学部高学年。どのような場面が想定されるか、具体的な意見が出た。気管切開をしている児童の対応については難しい点が多く挙げられた。なんとしても安全に水面から上がることが最重要課題になると予想している。当日はプール設備の故障のため中止、検証することはできなかったが、考える機会としては大いに成果があったと思われる。

それぞれのアンケートを分析し、「もし、こんな場所で地震がおこったら?どうする?」を作成(別紙参照)し、地震発生時の対応についてまとめることができた。

(非常食試食会)

昨年度まで防災部で行っていた試食会担当を摂食指導について取り組んでいる分掌のため、より専門的な視点を加えることができるのではないかと給食部に協力してもらった。乾パン、缶詰パンの試食は昨年度行ったため、今年度はフリーズドライの米飯の再調理方法について取り組んでもらった。本校の栄養士にも協力してもらった。(まとめ:次ページ参照)

日程上、児童生徒にも食べてもらうことが難しいことがあり、教職員のみで実施した。会議中に実施し、全職員で試食した後、児童生徒の実態と合わせての検証を行うことができた。また、PTAの理事会でも試食してもらい、保護者からの意見も多くもらうことができた。これにより来年度以降の非常食の購入計画も明確になった。味のしっかりした五目御飯と再調理しやすいおかゆ類を購入することにしている。

# 2013年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体) 最終報告書



## 【五目ごはん】

- ① 具が大きいのが気になる  
⇒ 具を取り除くか刻む (ハサミが必要)
- もちっと感が残る
- 味がしっかりしていて食べやすい (普通食向け)



形態① (水の量は規定量よりやや多め) ⇒ 普通食を食べている児童生徒は、ほぼ全員食べられます。

形態② (①をさらに多量の水で10分煮込む) ⇒ フープロを食べている児童生徒は、数名食べられます。

形態③ (②に水を加えて裏ごし) ⇒ フープロ食・裏ごし食を食べている児童生徒はほぼ全員食べられます。

【作り方】 ライフラインが切れたことを想定し、カセットコンロで煮込みます。この日はガスコンロでした。



① 水を多めにして煮込み



② 必要に応じて裏ごし

## 【ライスるん】

- 味が薄い ⇒ 調味料 (塩) があつた方がよい
- ③はトロミを入れれば食べられる
- 見た目のわりには、食べやすい
- お湯があるとよい。



形態① (水の量は規定量よりやや多め) ⇒ 普通食を食べている児童生徒は全員食べられる。  
フープロ食を食べている児童生徒はほぼ食べられる。

形態② (①よりも多量の水) ⇒ ①よりも食べやすい。

形態③ (②さらに水を加えて裏ごし) ⇒ 食べられるが、もう少しトロミがあつた方がよい。

## 2013年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体) 最終報告書



### (ひだか祭)

P T Aの企画コーナーの近くに防災倉庫の中身を展示、本校の防災教育の取り組みについてまとめたものを掲示した。実際に発電機のエネポや段ボールトイレをみてもらい、大きさなどを触って体験してもらった。分かりやすかった、との声も聞かれた。



本校の防災対策についての紹介と、校内の教室や体育館での地震が起きたときの対応についてまとめたものを掲示した。また、防災備蓄倉庫より、その中身を展示して実際に見て触れてもらうことができた。



それぞれの備品について説明し、本校の特徴でもある食事に配慮を要する児童生徒がいる点から、非常食への工夫をしていることを紹介できた。また、防災袋も展示し、本校独自の取り組みを紹介することができた。

### (家庭版ガイドブック『我が家の防災対策はじめのいっぽ』発行)

今年度の取り組みについてまとめたもの。毎回やり方が分かりにくいという伝言ダイヤルの利用方法や非常食の再調理方法、2回の防災研修のまとめやアンケート結果などを掲載している。(別紙参照)

### (防災対策検委員会)

今年度新たに創設した委員会。防災部を中心に、管理職、各学部主事、養護教諭、看護教諭、自立活動部、給食部、スクールバス部、教務主任、事務室等のメンバーで校内の防災対策について話し合う組織。福祉避難所についても学校全体の問題として考えることが出来た。また、避難訓練等の反省から非常時の個人の薬の置き場所、備蓄対策などを新たに提案することが出来た。

## 2013年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体) 最終報告書



### (引き渡し訓練)

本校はこれまで引き渡し訓練を実施したことがなく、数年前から検討課題になっていた。今年度初の引き渡し訓練を計画した。レスパイトサービスを利用する児童生徒も多いため、その連絡方法や対応を保護者とともに確認し、主に車で送迎することを想定し、その安全な引き渡し方法について実際にどのような動きになるか検証することにした。また、保護者が迎えに来る間に担当者が防災倉庫から備品を運び出す訓練や、地震発生時の対応についての確認と児童生徒が個人で用意している「防災袋」の意味とその中身を各自で確認できるような事後指導も行った。

当日は引き渡し訓練に参加できずにスクールバスやレスパイトサービスで帰る児童生徒もいたが、大きな混乱もなく引き渡すことができた。本校の敷地が狭いため、車の通行が問題視されていたが敷地内を一方通行にすることでスムーズに行うことが出来た。11月下旬ということもあり、体育館に避難すると予想以上に寒くて毛布やストーブを急遽用意した。季節に合った対応が必要だということがわかった。引き渡す際の対応票の扱いや当日の出欠席が分かる表などの記入方法に課題があった。また、トイレの場所や休憩する場所、搬出物品を置く場所など体育館内のレイアウトに工夫が必要なことが、実施したことで明らかになり、今後防災対策委員会等で検討することになった。

「訓練のために特別に」行なうのではなく「日常的に行なっていること」を災害時にもできるようにあらゆることをシンプルに考えていこう、という反省が出ている。今後は季節や時間等も考慮しながら継続して行なう予定である。

### (防災部コーナー)



避難方法やこれまでの取り組みでまとめたものを防災部のコーナーに掲示し、いつでも見られるようにしている。地震の時の初期行動についてもイラストで分かりやすく表現した。

「だんごむしのポーズ」で「あたまをまもって」「車椅子のブレーキとベルトのチェック」等のカードも作成し、教室等で指導できるようにした。

## 2013年度防災教育チャレンジプラン(入門枠実践団体)

## 最終報告書 記入上の留意点



最終報告書の作成にあたり、赤枠の項目について、以下を参照し該当番号を記入し、具体名称等を詳細欄に記入をお願いします。

「その他」を選択した場合は、詳細欄に具体的内容を記入してください。

## 1. プランの対象者について (複数選択可)

	項目		項目		項目
1	幼児・保育園児・幼稚園児	8	教職員・保育士等	15	高齢者
2	小学生(低学年)	9	保護者・PTA	16	海外
3	小学生(高学年)	10	地域住民	17	防災関係者
4	中学生	11	社会人・一般	18	全ての人々
5	高校生	12	女性	19	その他 ( )
6	大学生	13	障がい者		
7	外国人留学生	14	養護学校児童生徒		

## 2. 対象災害種別について

	項目		項目
1	地震	5	不審者・犯罪被害
2	津波	6	火災
3	水害	7	災害全般
4	火山噴火	8	その他 ( )

## 3. プランの目的について

	項目		項目
1	遊び・楽しみながらの防災	6	防災に関する知識を深める
2	防災に役立つ資料・材料づくり	7	技術を身につける
3	災害に強い地域をつくる	8	防災意識を高める
4	災害を想定した訓練	9	災害対応能力の育成
5	災害を疑似体験	10	その他 ( )

## 4. 協力連携先

	項目		項目
1	学校・教育関係	6	企業・産業関連の組合等
2	同窓会組織	7	ボランティア団体・NPO法人・NGO等
3	保護者・PTAの組織	8	職業、職能団体
4	地域組織	9	学術組織、学会等
5	国・地方公共団体等	10	その他 ( )

## 5. プログラムの種類について (複数選択可)

	項目		項目		項目
1	イベント・行事	7	学校内クラブ活動	13	体験学習
2	講習会・学習会・ワークショップ	8	その他学校内での時間	14	読書・絵本・読み聞かせ
3	講演会・シンポジウム	9	校外学習・移動教室	15	演劇
4	総合的な学習の時間	10	家庭学習	16	避難・防災訓練
5	教科学習	11	出前授業	17	その他 ( )
6	学級活動	12	研究		